

平成17年度・第37回 全国ミニバスケットボール大会 第11回茨城県予選大会組合せ及び結果 (男・女)

1/21(土) A・B・Cコート(笠松運動公園体育館)

1/22(日) A・Cコート(笠松運動公園体育館)

- 1. 9:00 ~
- 2. 10:05 ~
- 3. 11:10 ~
- 4. 12:15 ~

(出場枠)県選手権大会ベスト8より
 (女子) 県北:0 中央:4 鹿行:0 県南A:1 県南B:2 県西:1
 (男子) 県北:1 中央:1 鹿行:0 県南A:2 県南B:2 県西:2

優勝 市毛

(女子)

49	16 -1Q- 0 8 -2Q- 11 8 -3Q- 5 17 -4Q- 3	21
----	---	----

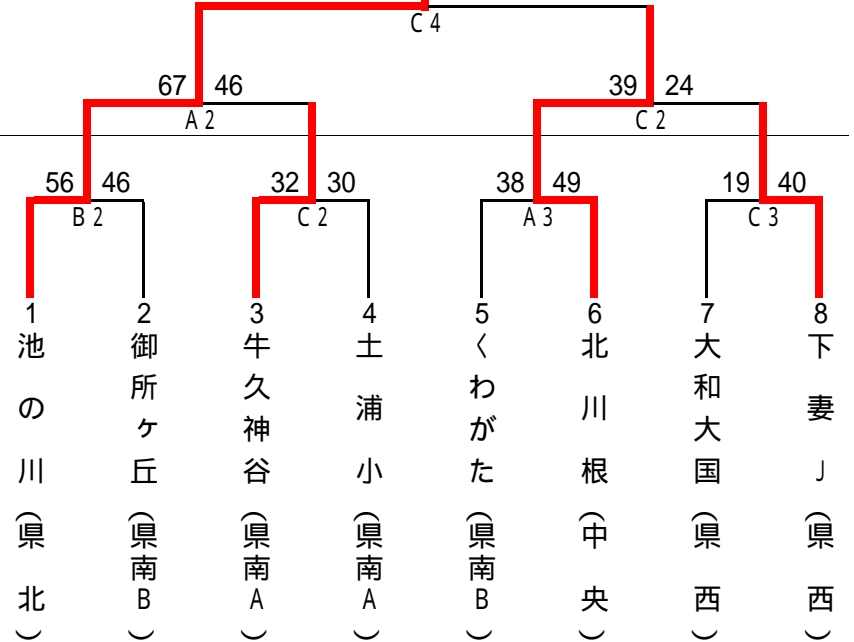
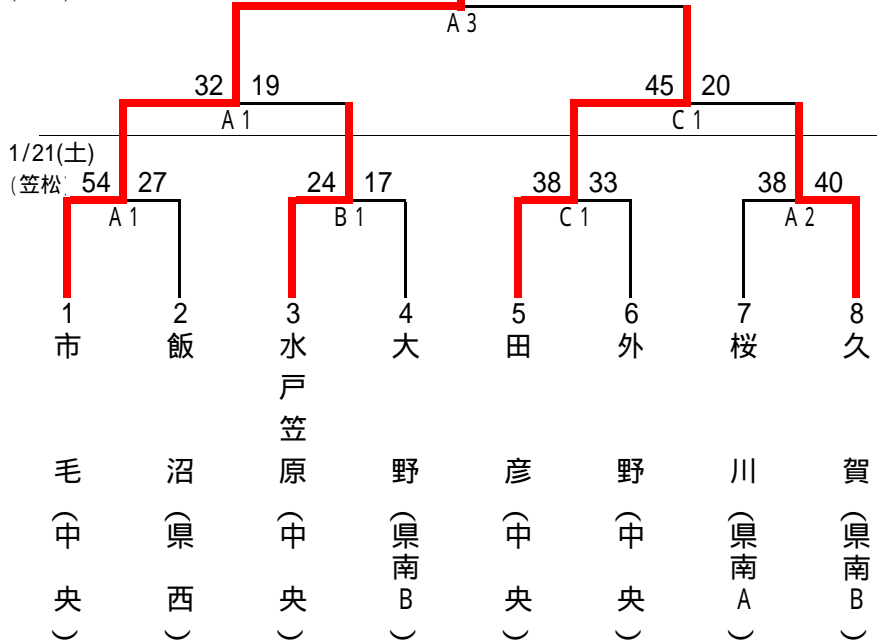
優勝 池の川

(男子)

63	19 -1Q- 9 13 -2Q- 8 13 -3Q- 14 18 -4Q- 15	44
----	--	----

1/22(日)
(笠松)

1/21(土)
(笠松)



女子決勝戦選評 (佐々木剛氏)

1Q 市毛ゾーン、田彦マンツーマンでスタート。市毛 のゴール下・ のドライブ等で次々と加点、田彦タイムを取るも流れは変わらず市毛16点のリード。
 2Q 田彦 のドライブなどで反攻。市毛も の高さを生かす。点差13点に詰る。
 3Q 立上りミスが出てお互い得点が伸びない。
 4Q 巻き返しを図る田彦はオールコートでプレッシャーを掛け外からのロングシュートで仕掛けるも決まらない。市毛はリバウンドからの速攻、ゴール下にて着実に加点。市毛最終クォーター総合力を発揮し、49-21にて圧勝。
 市毛は高さを生かしたオフェンス・ディフェンスで全国大会出場を決める。小柄な選手もナイスプレーの連続でした。田彦も久賀を破り勢いを着けて決勝に進んできたが、市毛の高さの克服は難しかったか。両チームに拍手！！

男子決勝戦選評 (倉持則男氏)

決勝は春・秋連覇の池の川と秋ベスト8ながら力を付けてきた北川根の対戦となった。
 1Q 北川根 のフリースローで2点先制。池の川残り2分から速攻・リバウンドが決まりの活躍もあり10点リード。
 2Q 池の川のゾーンを攻め切れない北川根。 の加点などで池の川15点リードで後半へ。
 3Q お互いアウトサイドのシュートが決まる。池の川 のシュート・速攻で加点。北川根も反攻決まるもなかなか点差が詰らない。
 4Q 北川根オールコートマンツーマンを敷き のコンピプレーを中心に必死の反撃。池の川も を中心に着実に加点。前半から終始リードを護り切り池の川が全国への切符を手中にした。両チームともスピード・シュート力に大変見応えがあった。敗れはしたが北川根も素晴らしいチームに仕上がって来ており賞賛に値した。池の川の全国での活躍を祈念する。